魚類

▶山間部を流れる川は、流れが速く、水温も低く、川底に大小の石が見られます。平坦部に近づくにつれ、流れが緩やかとなり、川底の石も小さく、砂が混じり、川の中や水際には植物が見られるようになります。川の環境は場所によってさまざまで、そこで生活する生きものの種類も変わってきます。

▶山間部の渓流は、遊泳力のあるタカハヤや、岩にへばりつくカワヨシノボリなどが生息しています。

▶丘陵部から平坦部の河川は、水深が深く流れのゆるやかな淵(ふち)にカワムツ、流れのある瀬にオイカワ、植生が見られる水際でオヤニラミやムギツク、ワンド(※)にミナミメダカや各種の稚魚などが生息しています。

※ワンド：河川の本流とつながっている水がよどむところです。魚の産卵や成育の場、増水した時の魚の避難場所としても機能していて、様々な魚類を含む水生生物のすみかになっています。

▶平坦部の農業用水路は、ナマズ、ヤリタナゴやアブラボテなどのタナゴ類などが生息しています。

生きものの主な生息環境を表示しています。

日本固有種のシマドジョウ・貝を利用するタナゴ

❶アリアケスジシマドジョウ

日本固有種で、筑後川を含む佐賀県六角川水系から熊本県の菊池川水系の間を流れる川に局地的に分布するシマドジョウです。2012年に新種として記載されました。種の基準となるタイプ標本の産地はうきは市美津留川で記載されています。

❷貝を利用するタナゴ類

市内の河川に生息しているヤリタナゴやカゼトゲタナゴなどのタナゴ類は、ヌマガイやカタハガイと呼ばれる二枚貝を産卵場所として利用しています。メスは長い産卵管を使って二枚貝のエラの中に産卵し、孵化した稚魚は成長するまで貝の中で安全に過ごします。

□ オイカワ（コイ科）
Opsariichthys platypus

本州、四国、九州に分布。主に平地を流れる河川の中流から下流や農業水路、池沼などに生息します。繁殖は5～8月。川底の石に付いている藻を主に食べますが、秋にはアユの卵も食べます。

□ カワムツ（コイ科）
Candidia temminckii

本州中部以西、四国、九州に分布。主に河川上流から中流の淀みや淵などをすみかとし、繁殖は5～8月。川底の石に着く藻や水生昆虫を食べます。よく似た魚にはヌマムツがいます。

□ タカハヤ（コイ科）
Rhynchocypris oxycephala

本州の静岡県、福井県より西側、四国、九州などに分布。比較的水温の低い渓流の、淀みや淵などに生息します。繁殖は5～7月。川底の石に付く藻や水生昆虫を食べます。

□ アリアケスジシマドジョウ（ドジョウ科）
Cobitis kaibarai

日本固有種です。分布域が限られており、有明海に流入する一部の河川のみに分布。主に河川中流から下流や農業水路に生息し、水底が砂や泥の植生の多い場所を好みます。

□ ミナミメダカ（メダカ科）
Oryzias latipes

日本固有種で、本州～沖縄に分布。主に平野部の河川、池沼、水田、農業水路などに生息しますが、汽水域でも見られます。近年、ミナミメダカとキタノメダカの２種に分けられました。

□ カワヨシノボリ（ハゼ科）
Rhinogobius flumineus

日本固有種で、本州の中部地方より西と、四国、九州などに分布。主に河川の上流から中流に生息します。ほかのヨシノボリ類と異なり、一生を淡水で過ごすのが特徴です。

☑ うきは市の生きものを見つけてみよう！

底生動物

▶底生動物とは、湖沼や河川など水域に生息する動物のうち、水底で生活する動物の総称です。サワガニやエビなどの甲殻類、ホタルの幼虫の餌となるカワニナなどの貝類などのほか、幼虫期は水中にすむカゲロウやトビケラなどの昆虫類など、水底を利用する様々な分類群の生きものが含まれます。

▶うきは市は、山間部から丘陵部に見られる渓流、滲み出した水からできる溜まりやため池といった止水環境、平坦部の流れの緩やかな河川や水路など、さまざまなタイプの水辺環境が見られます。このような豊かな水辺環境を反映して、市内の渓流ではサワガニやヘビトンボなど、平坦部の河川ではカワニナやコヤマトンボなど、滲み出した水の溜まりでは水質の良好な場所を好むモンキマメゲンゴロウなど、美津留川などの農業用水では水田に生息するヒメタニシや水路に生息するトゲナベブタムシなど、多様な種が確認されました。

生きものの主な生息環境を表示しています。

魚を利用する二枚貝

ヌマガイなどの一部の二枚貝は魚を利用しています。卵から孵化したグロキジュウムと呼ばれる幼生はヨシノボリやドジョウ等のヒレに噛みつくように取り付き、10日ほどで魚から離れたあと水底で貝として成長を始めます。魚に取り付くことにより親貝から離れた場所に移動することができます。

このようにお互いを利用している場合、片方がいなくなると生きていけません。そのため、川をきれいにする、自然を保護する場合は、そこに暮らしているいろいろな生きものをまとめて保全していくことが大切です。

□ カワニナ（カワニナ科）
Semisulcospira libertina

全国の山地の渓流や丘陵地から平野部にかけての小河川のほか、水質が良好であればコンクリート護岸の水路にも生息します。初夏に見られるゲンジボタルの幼虫の主な餌となっています。

□ マルタニシ（タニシ科）
Cipangopaludina chinensis laeta

全国の水田や湿地のほか、小河川やため池などに生息します。冬は、適度な湿度が保たれた泥底に潜って冬眠するため、水がなくなる乾田でも越冬することができます。

□ サワガニ（サワガニ科）
Geothelphusa dehaani

日本固有種で、本州～九州に分布。河川の上流～中流にかけて生息し、水中や水辺の石の下に潜んでくらしています。幼生期を卵の中で過ごし、稚ガニの状態で孵化します。

□ トゲナベブタムシ（ナベブタムシ科）
Aphelocheirus nawae

東海地方～西側の本州と九州北部に、局地的に分布。大きさは1cm ほどで、主に砂が堆積した河川中流や農業用水路に生息します。前胸背の側角がとがる点が、ナベブタムシとの大きな違いです。

□ ヘビトンボ（ヘビトンボ科）
Protohermes grandis

幼虫は渓流の石の下に潜んでいますが、羽化して成虫になると幅の広い透明な翅を持ち、飛んで昆虫を捕えます。成虫も幼虫も不用意に捕まえると、大顎で噛みつかれるので注意しましょう。

□ スジエビ（テナガエビ科）
Palaemon paucidens

湖沼や河川全域に広く生息します。透明感のある体に黒いしま模様が入るのが特徴です。湖沼や河川に広く生息する集団、河川のみに生息する集団に分かれることが知られています。

☑ うきは市の生きものを見つけてみよう！